



オリーブ通信



2020年
10月号
2020.10.10発行
第226号

<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu/>

あたらしい
なにか
仲間を
しょうかい
します



チャン・ティ・フォン・
トウイ（ベトナム）
子どもの時、日本の
アニメを見て日本語
の発音が好きになり
ました。日本語をたく
さん使いたいです。



藤川 サウロ
（ブラジル）
原付の免許を取り
たい！リフトの免許
を取りたい！玉かけ
の免許を取りたい！



現在、オリーブでは新型コロナウイルス感染拡大防止のため先生一人に生徒は3人までとなっています。再開当初は生徒が余ってしまうのではないかと心配していたのですが、帰国したり、日本語能力試験が中止になって学習のモチベーションが下がってしまったり、仕事が忙しくなって土曜日でもシフトが入るようになったり、さまざまな理由で生徒数も半減しています。生徒が来なくなって、お休みする先生もおられますが、一方で数年前に学んでいた生徒が戻ってきたり、新しい生徒も少しずつ受け入れ始めています。レベルに合った班に余裕があれば入ることができますが、N3以上は特に希望が多く、ウェイティング・リストに登録して空きを待ってもらっている状況です。

中川先生のへんてこ日本語121

目は口ほどに

私の勤務する大学でも、秋学期(後期)から一部の授業で「対面授業」が取り入れられることになった。厄介なことに、対面に参加するか、遠隔で参加するかは、学生の選択になるので、場合によっては、ハイブリッドで授業をしなければならぬ。先日その講習会に参加したのだが、教室は、教卓と学生の座席とがアクリル板で仕切られ、飛沫が散らないようになっている。「私はそんなに危険か」と叫びたくなった。ヘッドセットを付け、授業の様子はリアルタイムで対面者ばかりか、遠隔受講者にも流さなければならぬ。教室内には、何台かのカメラと收音マイクが設置されている、なんだか放送スタジオにいるような気分になる。いや、そんなにカンコイイものではなく、オリの中に入れられたようなものである。

教室内を机間巡視することもできないので、私の主張する、60センチの距離から学生に発話を促すこともできない。

マスクをして話すか、フェイスシールドをして授業をするように指示があったが、欧米の先生は圧倒的にフェイスシールドの着用を希望しているそうである。学生に口元を見せたいというのがその理由らしいが、英語にしろフランス語にしろ、口元がよく動く。英語の(エ)や(エ)など、舌を出したり巻いたり、唇を噛んだり口口の動きが重要である。フランス語でも唇を突き出したり、横に引つ張ったりすることが多い。欧米人は、口の動きで感情を表現すると言われる。

一方で日本語は、さほど大きく口は動かさず、「目は口ほどにものを言い」で、口よりも目の動きから感情を表すことが多い。欧米人はサングラスで目を隠している、何ら不思議には思われないが、日本人は公的な場でのサングラスは、はばかれる。欧米人は、マスクで口元を覆うのを嫌い、日本人は目で(口元)しながらコミュニケーションを取る。



京都外国語大学 日本語学科教授 中川良雄

10月3日、滋賀県国際協会の みみタロウキャラバン隊 がオリーブを訪問しました



滋賀在住外国人のための情報紙「みみタロウ」。滋賀県在住の方はご存知だと思いますが、他府県在住の方は「何それ？」かもしれません。「みみタロウ」は1993年に増えてきた滋賀在住ブラジル人のために滋賀県国際協会の中にポルトガル語の相談窓口が設置され、翌年からキャンプ場や遊ぶ場所の案内をポルトガル語で発信したこときっかけで、1995年に日本語、英語、ポルトガル語の3か国で創刊したのが始まりとのことです。ボランティアの協力のもと徐々に言語を増やし情報紙として発行されるようになりました。耳よりの情報を出すよ、で「みみタロウ」という名前になったそうです。

昨年4月にインドネシア語とベトナム語が加わって今では日本語を含めて10言語が合計2万部、年4回(春夏秋冬)発行されています。滋賀の図書館や公共施設、教会、ブラジル食材店、レストランなどで入手可能です。

今回、新型コロナの影響で困っていないか外国人に直接話を聞いてみようと思われた「みみタロウキャラバン隊」がオリーブを訪問されたので中溝がインタビューしました。

「毎号載っているインタビューの対象者はどうやって見つけているんですか？」

光田: 相談者を通じて得た情報から選んだり、当協会職員の情報網や新聞で紹介されていた人です。滋賀県で活躍している外国の方の活動を広く知ってもらうことで読者の方々にもエンパワートメントが与えられれば良いと思っています。

「みみタロウを作成されているスタッフについて教えてください。」

光田: 相談員がメインで滋賀県在住の外国人が多いです。実質9名くらい。25年間継続しています。中国語、ハンダグ、台湾語の翻訳は当初から。皆さんボランティアで参加しています。

「今回の“みみタロウキャラバン隊”の目的は？」

西村: 今年5月、コロナ禍の中で県内在住の外国人の方々に対し、何かできることはないかと、みみタロウキャラバン隊を立ち上げました。困っている人が多いだろう、仕事がなくなっているのではないかと、生活支援やコロナの情報は翻訳しているから届いているだろうと想像するばかりで、本当は何に困っているのか、本当に情報は届いているのかわかりませんでした。そこで、多言語対応可能なキャラバン隊を編成し、県内各地へ派遣し直接お話を聞く、情報を届ける活動していくことにしました。新型コロナの影響で困っている外国人の声を直接聞き取ってニーズを調べ、中長期的な支援策の検討にも活かしていきたいと思っています。市役所や町役場の窓口、イオン長浜、



イオンタウン湖南と彦根で、外国人らしい方を見かけたら声をかけて、資料一式を渡して話したりしています。また県内の中国やインド、ネパール、ブラジルのレストランなどを月2回程度車でまわって資料を配布しています。キャラバン隊はチーフが2名で、外国ルーツの青年たち数名と留学生(大学生)等15名で構成されています。国籍は日本、中国、フィリピン、ブラジル、モンゴル、インドネシアです。

「みみタロウキャラバン隊はどのようにして始まったのですか？」

光田:当初は役所にキャラバン隊が出張して給付金等の手続きのお手伝いをしようと考えていました。名前を考えるときに「みみタロウ」なら外国人も知っているかもしれないし、また「みみタロウ」を広めたいという思いもあって、今回このような名前にしました。しかしキャラバン隊が動き出す頃には給付金申請がほぼ終わってしまっていたので「しが外国人相談センターで相談活動をしているよ」と広く知ってもらうための活動になりました。今回はいろんな所に行って活動しているので、初めて情報を手にした方もいるかもしれません。

西村:県としては「しが外国人相談センターがありますよ。」と機会を見つけては広報をしていますが、実際どれだけの方が存在を知っておられるのかわかりませんでしたし、チラシを見て電話をかけるというのも少しハードルが高いのではと思いました。なので直接チラシを渡して言葉を交わすと、顔の見える相談窓口と思ってくださり、身近な存在になるのではと考え、地道ながら続けること大切だと感じています。

伊藤:4月の時点では県は情報を多言語化するのがメインとなっていて届けるほうに手が回っていなかったのですが、キャラバン隊は情報を届けるのをメインに活動しています。

「今回来られたメンバーの皆さんはどうして“みみタロウキャラバン隊”に参加されるようになったのですか？」

東:JICAからブラジルに派遣されて日系社会で野球の指導をしていましたが、コロナ禍で一時帰国することになりました。そのときにJICAから紹介があり、滋賀に住んでいる外国人を支援したくて参加しました。

樋口:コロナ禍のためにJICA派遣先のラオスから一時帰国し、来年1月までが任期です。国内で待機しているときに本部から県内外の活動の案内がありました。

ラオスで生活していたときは、ご近所の方にも親切にさせていただいて生活に何も不安がありませんでした。待機中の活動として今はキャラバン隊の活動をすることが外国の方への一番の恩返しになると思っています。

張:友達から「張さんは人と接することが好きだから「みみタロウキャラバン」に参加したら？」と勧められました。自分も外国人なので困っている外国人の役に立ちたいと思っています。中華料理店を訪問して中国人に話をするとみんな喜んでくれるので役に立っていることを実感しています。



インタビューに答えてくださった方々

写真右から 西村峻介さん（滋賀県総合企画部国際課）、
光田展子さん（公益財団法人 滋賀県国際協会）、
張弦さん、東颯馬さん、樋口愛美さん
（みみタロウキャラバン隊メンバー）
他 伊藤かおりさん（滋賀県総合企画部国際課）

「みみタロウキャラバン隊」の活動は、これまで1カ月に10回ほどのペースで行われており、車で県内のほとんどの地域を回られています。活動は2月までの予定だそうです。今までの相談件数は46件、配布資料は1300部以上となっています。コロナは災いですがコロナがきっかけでキャラバン隊を始めたことで新たな繋がりができ、それは今後さらに広がっていくだろうと思います。もしまだ「みみタロウ」を知らない滋賀在住の外国人の方がいたら、ぜひ紹介してあげてください。

（構成:エンドウ）

しが外国人相談センター
みみタロウ

Tel. 077-523-5646 Fax. 077-510-0601 E-mail: mimitaro@s-i-a.or.jp
<http://www.s-i-a.or.jp/references/mimitaro>



先月の活動(9月)

日本語教室 9/5(M), 12, 26 (3回)
まちセン全体会議(内田千) 9/8

- 日本語教室の(M)は定例ミーティング
- ()内は参加者、または参加予定者。敬称略



参加人数(9月)

	9/5	9/12	9/26	
生徒	18	14	22	
先生	17	18	19	



今月の活動予定(10月)

日本語教室 10/3(M), 10, 17, 24, 31 (5回)
BNNスピーチ大会役員打ち合わせ(豊田) 10/3
みみタロウキャラバン隊の訪問 10/3
BNN運営委員会(豊田) 10/18



会員の動き(9月)

〈退会〉 なし
〈入会〉 なし

立命館びわこ講座 受講生募集中!

「近江を学ぶ、草津を識る」(全5)

講義収録動画をYouTubeにより配信します。1回につき20分前後の動画3本。草津市在住・在勤・在学の方、1500円。それ以外の方、3000円。申し込み後、E-mailで動画アドレスが送られてきます。(10/15締め切り)

- ①10月31日 「中高年者の健康増進に向けた自宅運動プログラム」
- ②11月7日 「琵琶湖が育む「食」の魅力」
お米やお魚を使った料理のワンポイントアドバイスも!
- ③11月14日 「大久保利通の野望」
滋賀県が日本の中心になったかもしれない国家構想
- ④11月21日 「多発する土砂災害に備える」
- ⑤11月28日 「古代近江ゆかりの官人・知識人」
外交・軍事・文化に果たした役割

申込みは、パソコン、スマホから「立命館びわこ講座」Webページにアクセスしてください。

《編集後記》

コロナの感染、滋賀県は新たな感染者が0の日もあって大阪に比べると危険度はかなり低いように感じますが、キャラバン隊の方によると「相談者は日本人よりコロナに過敏になっている」そうです。大学では一部対面授業も始まりましたが学園祭は中止になったりオンラインでの映像配信になったりで学生達の気分も盛り下がりが気味。10月からビジネスや留学目的の渡航は再開されるということですが、行くにも来るにも二週間の自己隔離が必要で以前のようにLCCで気楽に行き来するというわけにはいきません…ついにトランプ大統領も感染し「いいね!」がいっぱいついたそうです。(エンドウ)

本の紹介

『こんぱるいろ、彼方』

椰月美智子 小学館 1650円

どこか遠くの自分とは全く関係のない出来事だと思っていたことが実は自分と深くつながっていたと知ったとき、恐れず探求心を持ってそこに踏み込んでいけば自分の世界がさらに豊かに広がっていく…



二十歳の夏、奈月は母から「わたしね、ベトナム人なの」と打ち明けられる。母は幼いころ家族と共にボートピープルとして来日し、日本名を得て帰化。日本人として生きてきたのだった。

諸外国(日本も含む)に翻弄されてきたベトナムの近代史。北と南に分断され、中ソが北を米韓が南を支援してベトナム人同士が殺し合った戦争。戦後は北の共産主義政権支配が始まり、自由や個人財産を奪われた南の人々は命の危険を冒してでも国から脱出することを選択した。

平和な時代の女の子たちのおしゃべり、個人の手ではどうにもならない社会の荒波の中で家族を守ろうとする決意、助け合おうとする気持ち、時代や国は違っても一人一人の考えること、感じることにそれほど違いはありません。そして日本で「もし母親が外国人だとわかったら子どもがイジメられるんじゃないか」と心配する気持ちも残念ですが理解できます。

なかなか難民を受け入れない日本ですが、それでも外国にルーツを持つ「日本人」は確実に増えてきています。「中高生に向けて本を書いている日本人の作家がこんなお話を書いたんだよ!」ってベトナム人に感想を聞いてみたい一冊です。